

魚類部だより

魚類部長（総括研究管理員） 吉田 由孝

○中間育成・標識放流試験情報

魚類部で実施している今年度の中間育成・標識放流試験状況をお知らせします。

（マダラ）

平成20年1月に採卵しふ化飼育した脇野沢産稚魚を5月14、22日からむつ市脇野沢の中間育成場で中間育成し、脇野沢村漁協独自に生産した分を合わせて、6月19日に14,500尾(平均全長61mm)を標識(右腹鰭カット)放流しました。



脇野沢村漁協中間育成施設にて
標識放流

（マコガレイ）

平成20年2月1日に採卵しふ化飼育した三沢産稚魚を当所で、また、平成20年3月21日に採卵しふ化飼育した車力産稚魚を当所と車力漁協で中間育成し、三沢産稚魚23,754尾(平均全長69～72mm)を7月16日と7月25日に標識(青アンカータグ、パンチング)放流しました。また、車力産稚魚15,916尾(平均全長80mm)を8月20日と10月1日に黄アンカータグを付けて放流しました。



増養研でのアンカータグ
標識作業





三沢放流



小泊沖に放流



車力放流

(ウスメバル)

小泊漁協で平成19年8月7日から平成20年6月27日まで中間育成したウスメバル3,531尾(平均全長135mm)に赤アンカータグを付けて放流しました。



小泊漁協にて標識作業

(キツネメバル)

小泊漁協で平成19年8月7日から平成20年6月27日まで中間育成したキツネメバル7,914尾(平均全長110mm)に黄アンカータグを付けて放流しました。



小泊漁協でのキツネメバル標識魚

また、平成20年4～6月に(社)青森県栽培漁業振興協会で種苗生産した稚魚約2万尾を新深浦町漁協で、また、小泊漁協と下前漁協でも約5千尾を中間育成中です。下前漁協では10月末、新深浦町漁協で11月、小泊漁協で来年6月に標識放流する予定です。



新深浦町漁協で中間育成中

以上の当所の試験において、関係機関のご協力に心より感謝いたします。

標識放流試験では、試験魚がヒラメのように栽培事業の対象種になるのかどうかを検討するため、放流後の移動や成長、回収率による放流効果の把握が重要となりますので、漁業者や遊漁者の皆様には再捕報告のご協力よろしくお願いいたします。

なお、当所の試験以外にも、関係水産事務所の指導・協力のもと漁協独自にクロソイとキツネメバルの中間育成・標識放流に取り組んでいます。

クロソイについては、尻屋漁協、脇野沢村漁協、佐井村漁協、小泊漁協、下前漁協、車力漁協、鯨ヶ沢漁協で、7月に（独）水産総合研究センター宮古栽培漁業センターから種苗を入手し、中間育成後9～10月に標識放流しています。

また、キツネメバルについては、尻屋漁協、風合瀬漁協で、（社）県栽培漁業振興協会から種苗を入手し、現在中間育成中です。

各漁協及び関係機関の栽培漁業技術向上への取り組みに敬意を表します。



○海産魚類の魚病について

魚類部では、魚類の種苗生産や中間育成、養殖に取り組んでいる施設を中心に、魚病診断・対策を行っています。

県内の種苗生産・中間育成施設では、今のところ問題となるウイルスは確認されていませんが、飼育環境の影響による疾病はときどき見られています。一般的に見られる魚病で、今年発生した症例を写真で紹介いたしますので、参考にして下さい。

(細菌病)



ビブリオ病：眼球充血



培地にビブリオ菌発育



滑走細菌症：尾鰭欠損



鰭に細菌増殖 (× 400)

(寄生虫病)



トリコジナ症：体表や鰓に寄生



繊毛虫の一種
トリコジナ (× 400)

(その他)



ガス病：眼球に気泡



鰓血管内に気泡